

膵臓癌診療の肝転移病巣検索におけるEOB-MR検査の重要性

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	膵臓癌診療の肝転移病巣検索におけるEOB-MR検査の重要性
倫理審査 受付番号	第3967号
研究期間	2022年 1月実施許可日～2022年12月31日
研究対象情報の 取得期間	下記の期間に本院の肝・胆・膵内科および肝・胆・膵外科を受診された、膵臓癌（浸潤型膵管癌）の方 2013年 1月 1日～2018年12月31日
研究に用いる 試料・情報	カルテ情報
研究概要	（研究目的、意義）

膵臓癌は予後不良な悪性腫瘍であり、根治術を施行しても早期再発することが稀ではありません。このため術前画像検査は重要であり、より正確な治療前病期診断が、より適切な手術適応症例の選別につながるものと考えられます。EOB-MR検査はプリモビストを用いた造影MR検査であり、転移性肝腫瘍の検出率が向上したとされています。これまで術前EOB-MRI検査を施行するかどうかは主治医の判断となっていました。検査施行の有無により術後早期肝転移再発の発症率に差があるのか過去に振り返って検討するのが、本研究の目的となります。

（研究の方法）

2013年1月1日から2018年12月31日までの6年間に、当院で加療を行った膵臓癌症例を治療前にEOB-MRI検査を施行の有無で2群に、および手術加療を行った症例において術前EOB-MR検査施行の有無でやはり2群に分け、その2群間における患者背景(年齢、術前の全身状態・血液データ、術前EOB-MRI検査施行の有無、その他画像検査施行の有無、手術データ、病期)を比較するとともに、特に手術症例では術後早期肝転移の発症率に有意な差があるかどうか統計学的に解析します。

（個人情報の取扱い）

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

**本研究に関する
連絡先**

兵庫医科大学病院 肝・胆・膵外科、肝・胆・膵内科
藤本 康弘（研究責任者）
岩間 英明（研究担当者、肝胆膵外科）
中野 遼太（研究担当者、肝胆膵内科）

TEL | （平日 9 : 00～16 : 00） 0798-45-6582（肝・胆・膵外科）
TEL | （平日 9 : 00～16 : 00） 0798-45-6472（肝・胆・膵内科）
（上記時間以外） 0798-45-6111